

宮内彩の New Zealand Style no.3

Insidious Fix

Insidious Fixの洋服との出会いは、2001年の第一回NZファッションウィークの時。羊の毛刈りショーでオープンしたコレクションは、遊び心たっぷりで、ひとひねりしたニットの可愛らしさが目をひいた。「このブランドはなかなかイケる」と、新しい才能を発掘した時の興奮を覚えた。

数日後、アオテアスクエアのマーケットをぶらぶら眺めて歩いていたら、可愛いニットのスタンドが目についた。そこに並んでいる商品はInsidious Fixではないか。「ファッションウィークでコレクションを発表するようなブランドが、こんな市場で売られているなんて」とNZファッションの規模の小ささを実感した。「オネハンガに店があるの」と売り子の若い女性が教えてくれた。

Insidious Fixは、まだ、今のところNZファッションのBIGネームという意識はされていない。しかし、近い将来、世界的に知名度を上げていくに違いないと私は確信している。若々しさ、色使いのセンス、エッジーけどウェアラブルな点など、他のNZのニットメーカーとはひと味違う「勢い」を感じさせる。そのクリエイティブティの背景にはどんな人物がいるのか、デザイナーのカイリー・デビスを訪ねた。

オネハンガの店に行くと、「すぐ角を曲がったところに工場があるから」と案内された。そこで迎えてくれたカイリーの若さに驚いた。若干29歳の彼女は、既にビジネスをスタートして8年たつ。オークランドのポリテクで一緒に学んだビジネスパートナーのジェイソン・クロフォードと共に、95年にBenson & Hedgesのファッションアワードを受賞したことをきっかけに、二人で会社を立ち上げた。

「ジェイソンと私は、学生時代からビジネスの初期までは恋愛関係にあったけれど、個人的な感情よりも、ビジネスを成長させることを選ぶことにしたの。ビジネスパートナーとして続けていくには、恋愛関係に終止符を打たざるを得なかったの」と彼女は言う。「別れた当初は毎日会社にくるのが辛かったけれど、スタッフも大勢かかえていたし、大きな責任があったので、表向きは平気な顔をしていたわ」今ではお互いそれぞれのパートナーを持ち、親友であると共に、良きビジネスパートナーとしてブランドの発展に全力を尽くしている。「私がデザインやマーケティングを担当して、ジェイソンはビジネス面やショーの演出などを手がけているの」

今回の秋冬コレクションは、「セク



DINNER

大きく襟ぐりのあいた、真っ赤なセーターはディナーの席でも充分通用します。ミニスカートと組み合わせてセクシーに。
セーター \$ 189



RESORT

ベアトップのピンクのニットワンピースは遊び心たっぷり。秋から春にかけてインナーとしても活躍しそう。
ピンクベアトップ \$ 199



LUNCH

甘いピンクのヒラヒラ衿付きニットは清楚なイメージ。ジーンズとも相性抜群です。
ピンクニット \$ 179

EVERYDAY

スリープレスのタートルネックはオールマイティな一品。ミニと合わせてクラビングに、ツイードっぽいパンツと合わせてオフィスに、ジーンズと合わせて普段着に……
タートルネック \$ 179



WORK

茶色のニットワンピースに大きくVの開いたセーターを組み合わせて。ジャケット感覚で着るニットは、あまりカジュアルになりすぎないのがポイントです。
ワンピース \$ 189
セーター \$ 199



WORK

厚手のニットだけど、フィット感のあるカーディガンはジャケット代わりになるオシャレなアイテム。
白カーディガン \$ 230
ワインカラートップ \$ 149



DINNER

黒いレーシーニットはセクシーでエレガントな味わい。組み合わせ次第で、カジュアルにもフォーマルにも着こなせます。
黒ニット \$ 199

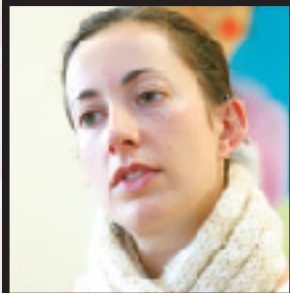


ニット専門のInsidious Fixはトップスが中心。セーターやカーディガンなど、着回しの効く単品がメイン。なので、今回のボトムはショーサンプルの参考商品です。



シーでフェミニンな面と、古着感覚を兼ね備えています。厚手のチャンキーなニットや、広く開いた襟ぐりなど、昔懐かしいスタイルを取り入れているの」とカイリーは言う。インスピレーションは、ほとんどオークランドや旅先の街でいろいろの人を見る事から。「Tanuki The Caveはビーブルウォッチングに最高よ！定期的に行くのよ」

この難しいニットの世界に足を踏み入れるきっかけとなったのは、ジェイソンの両親がニットメーカーを営んでいたからだ。専門的な知識を膨大に必要とする業界のため、なかなか部外者には敷居が高いのだ。ニットをベースに、カイリーの美意識とセンスで、若々しく、ファッションナブルなラインは、ニュージーランドとオーストラリアを中心に展開



されている。北半球での取扱店も数店あるが、これを拡大していくことが今後の課題だ。存在感のある、こ洒落たニットはワードローブの中でも重宝する一品。オネハンガのファクトリーショップに

足を運び、前シーズン物やサンプルなどから掘り出し物を探してみることをおすすめする。



宮内彩 東京生まれ。西町インターナショナルスクールを経て、スイス、ルロゼ高校、米タフツ大学卒業。帰国後、パリ・ミラノ等世界のコレクション取材。雑誌・新聞・テレビ・ラジオ等でファッション・コラムニストとして活動。オークランド在住の中村嗣氏と結婚のため、2000年より生活の拠点をNZに移動。01年、長男・章人君。02年、次男・天人君誕生。子育ての合間を見て、旅・食・住等ライフスタイル全般のコラムニストとして英語及び日本語で執筆活動を行っている。著書は近代文藝社「おしゃれのエッセンス」/おしゃれのエッセンス旅コレクション（母・大内順子と共著）等、NZでの生活のエッセイが載っているホームページはwww.ouchi-junko.com

Fix Factory Shop ● 8 Selwyn Street Onehunga, Auckland
Paris Texas ● 09-302-1687 / Stella Gregg ● 09-377-7078
Texas Radio & the Big Beat ● 09-379-2797 / Browns ● 09-309-5356